

アコモード

タイムズ

第56号

編集・発行

社会福祉法人 アコモード

- 特別養護老人ホーム アコモード
- アコモード指定居宅介護支援事業所
- アコモードヘルパーステーション
- デイサービスセンター アコモード
- グループホーム アンダンテⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アザレアⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アヴァンセⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アメリアⅠ・Ⅱ
- 特別養護老人ホーム アクイール
- デイサービスセンター アクイール
- キッズルーム アクイール
- キッズルーム アコモード
- アンジェリカ保育園
- 我孫子市老人福祉センターつつじ荘
- 我孫子市布佐・新木地区地域包括支援センター
- 我孫子市我孫子南地区地域包括支援センター
- アコモード相談支援事業所

千葉県我孫子市布佐1559-2
Tel.04 (7189) 5201・Fax.04 (7189) 5203

「住む」より「暮らす」へ

特別養護老人ホーム アクイール

生活相談員

金井 雄司

認知症ケアの推進

昨年夏からの猛暑に続き、十月でも季節外れの真夏日となる等、秋をゆっくり感じられないまま冬となり、新しい年を迎えました。厳しい寒さが続きますが、皆様にとって心温まる一年になることを願っています。

二〇二五年は、団塊世代約二二〇〇万人の方々が七五歳以上となり、人口の四人に一人が後期高齢者となる「超高齢社会」に突入すると言われていきます。この「人口の超高齢化」がもたらす様々な社会問題（社会保障費増・医療介護サービス提供人材不足等）には、福祉の仕事に携わる身として、当然無関心ではいられません。

問題のひとつ、認知症を患う方が高齢者人口増加とともに増加していて、厚生労働省からは、五人に一人の高齢者に症状があるとの推計が出されました。認知症とは、様々な原因によって脳細胞の働きが悪くなったことにより、記憶や判断力など認知機能に障害が起った状態を指し、今後介護が必要な

方が増えることによって、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」や、認知症を患っている方が介護を担う「認知介護」が深刻化しているのです。

症状が進行し、ご自宅で生活することが難しい方の受入れ先のひとつとして特別養護老人ホームがあり、アクイールでもご入居者一〇〇名のうち、九割以上の方に何らかの認知症状がみられ、お申込みいただき入居を待機されている約一八〇名のうち八割の方は認知症状がある状況となっています。お申込み相談時ご家族からは、「認知症の症状がひどくても特養に入れるのだろうか」、「他の人に迷惑をかけてしまうのでは」といった心配や、「入居した後、どんな生活を送っていくのか」、「どんな催しや余暇活動があるのか」など、ケア内容に関する質問をいただくことがよくあります。令和六年一月に「認知症基本法」も施行され、日本全体・地域全体で認知症と向き合うとしている今こそ、「介護の専門

家」である私達が認知症ケアの専門性をさらに高め、ご入居者やご家族が安心してアクイールを選び、過ごしていただける場・地域の拠り所とならなければ、と考えています。

「住む」と「暮らす」という言葉は、どちらも「生活する」という意味で使いますが、「住む」はその場所に重点を置いているのに対し、「暮らす」は「のんびり暮らす」「売って暮らす」というように、行動や活動に結びついているという違いがあります。

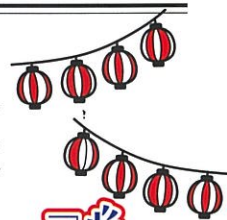
入居されている皆様には、アクイールに「住む」から一歩進んで、認知症がある方の尊厳が守られながら「楽しみや役割を持って活動する」「心穏やかに過ごす」等、お一人お一人に合った「暮らし」をご提供できるよう、職員一丸となり精進してまいります。





昔は全てに神が宿るとして、自然と神様に感謝をするための儀式であった日本人にとっての「祭り」。今では催しとしての意味合いが強くなっていますが、年齢問わず「お祭り」という言葉をきくだけで、なにか非日常の雰囲気があり、ワクワクするのではないのでしょうか。

ご入居者のなかでも恒例の催しを心待ちにしてくださっている方が多く、各事業所では様々な形で、お祭り行事を開催しました。



心躍る「お祭り」特集

七月七日七夕祭り

(特養アコモード)



ご入居者全体を数グループに分け、一階デイルームの会場へ順番にご案内しました。お祭りの屋台の雰囲気を感じていただけるよう、焼きそば・コロッケ・チーズドック・おしるこ等の看板が並びました。焼きそばやコロッケはつくりたてを提供。目だけではなく匂いでも楽しんで頂けたのではないのでしょうか。お昼は皆さんが食べられるものを選択、飲み物は普段お出ししない炭酸ジュースが人気でした。

くじ引きや射的の遊戯や、カラオケも自由参加。男性のご入居者がミスターチルドレンの「HANABAR」を歌われ、ご家族が「そんな曲を歌えるんだ!」と驚かれる場面も。

七月十日・八月二十三日夏祭り

(アコモード・アクイールデイ)



デイサービスでは毎年恒例となっている夏祭り。楽しみにしていただいているご利用者も多く、普段の予定以外の方もご利用いただき、まさに「お祭り騒ぎ」の一日でした。

アコモードデイでは焼きそば・フランク・たこ焼き・枝豆・ノンアルコールビールなどを提供。輪投げや金魚すくい(金魚は本物ではありませんが)を楽しんで頂きました。お神輿や盆踊りでは職員も奮闘、ご利用者と一緒に体を動かししました。



アクイールデイには、ボランティアで「和太鼓愛好会」様が来ていただきました。間近での演奏を体感した方は「迫力がすごい」と興奮。食べ物には水あめが大人気で完売でした。スイカ割りのご利用者が挑戦し、見事大成功! 使用したスイカは、その後おやつ時間に皆さんで美味しく頂きました。

十月十九日 秋祭り

(特養アクイール)

これまで八月に夏まつりと称して開催していましたが、猛暑を避け初めて十月に開催。例年通りご家族や地域の皆様にも自由に参加していただきました。キッチンカーのSnow Kotan様、我孫子駅北口にあるAbiko Carry CAFE様や、市内の障害者支援事業所の方々が出演、演目では呼魂太鼓様、湖北台ダンス研究会様、よさこい志く様が盛り上げてくださいました！職員は出店やバザー、ネイルサロン、看護師による健康相談などを担当。地域の皆様との交流も深めました。



十月二十七日 ふれあい祭り

(グループホームアンダンテ)

運営状況を報告する会議の場かねてより、ご家族からお祭り再開のご要望を頂いていた中、三年ぶりにふれあい祭りを開催！

ボランティアとして、布佐上町のお囃子の会と、東我孫子高校吹奏楽部の皆様に参加していただきました。お囃子の迫力ある演奏に、いつもはウツトされることの多い、布佐上町の近所ご出身のご入居者が、笑顔で手拍子されているのを見て、ご家族も喜ばれました。東我孫子高校吹奏楽部九名様の演奏が始まる頃には雨も止み、ピンクレディーや美空ひばりさんの曲で会場を沸かせていただきました！



自然に触れる機会を

アンジェリカ保育園



アンジェリカ保育園は、千葉県の制度で、自然環境保育に取り組む施設の活動に対し支援が受けられる「ちば・うみやま保育」の認証を受けました！

去年の夏、屋内とつながる屋外スペースにウッドデッキを設置。園庭の前に出られるテラスとなり、新鮮な外気に触れやすくなりました。屋根もあるので雨の日でもテラスへ出て遊んでいます。

今は園庭を緑豊かに改造中です！



オレンジ色で認知症啓発

RUNあびこ2024に

参加しました！

認知症の啓蒙をすすめる9月の「世界アルツハイマー月間」に合わせて我孫子市でも実施されている取り組みに、昨年も参加しました。

八月九月の毎週月曜日を「オレンジデー」とする啓発活動のスタートイベントでは星野市長へ、デイサービスご利用者がつくった認知症啓発のシンボルカラーでもあるオレンジ色のミサンガを贈呈。

十一月二十三日には、認知症の方やそのご家族、地域の方や支援者がたすきをリレーして繋ぐ「RUNあびこ」に、デイご利用者や特養ご入居者が参加。近所の方がご利用者に付き添って歩いて下さったり、沿道で応援して下さいる方も。着実に地域に浸透してきているのではないのでしょうか。



食べ物も身体も大切に バイキング会食会



我孫子市内の福祉施設・病院等で働く栄養士が所属する「我孫子市高齢者食生活上委員会（通称AKSK）」は、我孫子市サービス事業者連絡協議会から派生され、地域の在宅介護を、食を通じて支えていく活動を行っています。

取り組みのひとつ「バイキング会食会」では、主に地域で暮らす六十五歳以上の方や在宅で介護をされている方を対象に、栄養士が考案した料理をバイキング形式で楽しみ、皆様の交流の場としていただくとともに、食の大切さを発信していくイベント。コロナ禍での中止を経て、令和六年九月十三日、二年ぶり六回目となる会食会が近隣センター「こもれび」で開催され、来場者は三〇名程、特養アコモ

ドとアキールから、委員会メンバーの寺山栄養士と山陰栄養士も参加しました。

準備期間には、食品ロスを減らす試みとして、各施設に「フードバンク」を設置。施設の厨房内や職員の家庭から余っている食品が集められ、バイキングの食材として役立てられました。

会食前には我孫子市高齢者支援課の管理栄養士岡田様から講和があり、フレイル（健康と要介護の間の虚弱な状態）予防について、栄養面のポイントが語られました。会食では、皆様談笑しながら各料理を召し上がり、一緒に置かれたレシピをみて、作り方や栄養バランスが考えられた食材を確認しながら楽しまれているようでした。来場された方からのアンケートでも、「とても参考になった」「年に何回かあればいいと思った」「ミルクコーン茶碗蒸しは、ぜひ作ってみたい」「スパゲッティのカップサラダが一番気に入った」「お赤飯に鰻が最高」など、沢山の感想をいただきました。



ファミリーデーの開催

◇バーベキュー懇親会◇



令和六年九月二十九日(日)、社会福祉法人アコモードの各事業所の職員とその家族が集まり、バーベキュー懇親会を行いました。食べたり飲んだりしながらの交流で、職員の普段と違う面が垣間見えたり、お子さん同士で遊ぶ姿もあるなど、家族ぐるみで親睦を深めることができました。



以前からワーク・ライフ・バランス(仕事と仕事以外の生活との調和をとり、両方を充実させる生き方)の重要性が叫ばれていますが、今はさらに発展した概念として、「ワーク・ライフ・インテグレーション(仕事と生活を切り離した考えではなく、それぞれが人生の一部と捉えること)」や、「ワーク・イン・ライフ(人生のなかに仕事があるという捉え方)」があるといいます。家族(配偶者や子ども)に仕事のことを知ってもらうことで、自分の仕事にあらためて誇りを持つきっかけにもなり、モチベーションのアップにもつながるのではないのでしょうか。

また、今回のバーベキューは災害発生時の炊き出し訓練も兼ねて、特養アکیلールの駐車場で行いました。事業所ごとにお肉担当、野菜担当、焼きそば担当と役割を決め、準備から



片付け確認までを皆で協力して実施。非常時に必要な物や施設で何ができるかなどを確認する良い機会となりました。

生産性向上への取り組み

二〇二五年問題のひとつに、少子高齢化加速による介護人材不足の深刻化があります。法人ではかねてから、限られた職員で専門性の高い介護サービスを提供していく為に、「生産性向上」への取り組みを続けています。

介護サービスにおける「生産性向上」とは、厚生労働省のガイドラインによると、「介護の価値を高めること」と定義されていて①人材育成、②チームケアの質向上、③情報共有の効率化に取り組み、サービスの質向上と人材定着を目指すと言われています。

法人の取り組み

■5S運動

■タブレット記録システム

■眠りスキャン

■コミュニケーションロボ「パルロ」

5Sとは整理・整頓・清掃・清潔・しつけを指す言葉。日々の整理整頓はもちろん、例えば誰が見てもわかるよう写真・図表付きで掲示し、どこに何があるのか、どのような手順で行

うのかを「見える」化するなど、環境整備を行っています。

業務の大部分を占める記録。これまで紙で記録していたことを、タブレットを持ち運びその場で電子記録に残すことで情報共有が簡単に、送り時間の短縮にもなっています。

「眠りスキャン」は、職員が離れていてもモニター上で呼吸数・心拍数・睡眠状況を把握することができ、職員数の少ない夜間帯での安全確保や、排泄介助に入るタイミングの把握にも役立っています。詳細なデータは、ご家族への説明時にも分かりやすい資料として活用できるでしょう。

パルロは、顔や名前、会話の内容を記憶するので、その方によって内容の違う自然な会話をする事ができます。職員がご入居者と向き合えない時間の手助けになるよう運用を進めているところです。

今後は、眠りスキャンの台数を増やすことや、一体複数で離れた場所にも導入し、さらに業務効率化をすすめていきます。



資格取得報告

令和六年

〈ケアマネージャー〉

五十嵐 美穂さん

(アキールデイサービス)



筆記試験に合格したので次は研修を頑張ります!

〈社会福祉士〉

宇田川 崇さん (アキール特養)



3度目の正直で合格しました! 今後何事にも諦めず皆様の生活のサポートをしていきます!

高橋 宏さん (アキール特養)



社会全体に貢献できるように頑張ります!

蛭田 怜鷹さん (アキール特養)



今後は現場もやりつつ相談員業務にも挑戦したいです!

出産報告



竹本由美さん

(アキール厨房)

令和6年7月20日 第3子

響(ひびき)くん



根本亜沙美さん

(アコモード事務員)

令和6年3月25日 第3子

彩良(さら)ちゃん

社会福祉法人アコモードWEBサイトもご覧ください!



各事業所の紹介、求人情報など随時更新しています。最新の広報誌も掲載中です!

「ちばSDGsパートナー」に登録しています!

「持続可能な世界」を達成する為に、法人全体で取り組んでいきます!



ちばSDGs
ちばSDGsパートナー 353号



Instagram
インスタグラム

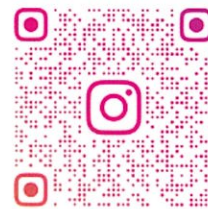
いいね・フォローお願いします!



ABIKOANGELICA
アンジェリカ保育園



@ACU6511
*特養アキール



ACOMODER
アコモード

編集後記



二〇二四年の流行語が発表されました。一番最初に思ったことは「大賞の“ふてほど”ってなに?」そんなドラマが人気だったなんてびっくり仰天でした。“ホワイト案件”はSNSを通じて求人で闇バイトではないことを指す言葉。バイト感覚で犯罪を犯してしまうような今の現状には不快感を感じます。印象に残ったのが、陸上女子やり投げで金メダルを獲得した北口榛花選手の“名言が残せなかった”で、逆説的で面白いなど。名言とて、一九七四年巨人の長嶋茂雄選手が引退セレモニーで語った「わが巨人軍は永久に不滅です」多くの人の記憶に残る名台詞だとはつきり断言できるでしょう。そんな私は名言どころか、プロポーズの言葉すら残せていない始末、あとから後悔しきりです。

広報委員タイムズ担当

【最後にクイズ】
編集後記の中には「二重表現(同じ意味の語を重ねる表現)」が八つ使われています。どの部分かわかりますか?